



みらいこども園

12月号

2025年12月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



成長を感じる子どもたち

早いもので、今年もあと一ヶ月となりました。大人は、師走を迎えると一年の締めくくりということで、何かと慌ただしい日々が続く、自然の何気ない変化に気づかないまま過ごしてしまいがちですが、子どもたちは、常に目にしたものの触れてみたものに関して、不思議さや驚きを感じ、時には喜びや感動を得て、次への探求につなげていく姿が見られます。みらいこども園は、体験活動を大切に考え、園庭緑化を始め園庭や室内環境の工夫をしてきました。保育者以上に子どもたちは、ものごとに好奇心を持ち関わる姿が増えてきて、時には、子どもたちから自然の大切さや新たな物事の考え方を教わっています。落ち葉を使つての遊び、泥団子作り、虫の観察、丸太を使つての遊びなど、友達と刺激しあいながら、楽しみ方を見つけています。これこそが、学びの一步なのだ日々痛感しています。先日、DCUの仙田先生を講師としてお迎えして、園庭の環境についてご教授いただきましたが、この時も「子ども（乳幼児）は、「センス・オブ・ワンダー」＝自然など目にしたものの触れたものに神秘さや不思議さを感じ、驚いたり感動したりする感性を生まれながら持っていて、自然に引き寄せられているんだよね。しかし、大人になるとその感性が意識しないと失われてきてしまう。人間にとって生命尊重の基礎になる感覚は、まさに今、大切にしていかななくてはならない分野で、保育者として重要な役割なんですよ。」とおっしゃっていました。特別なことをしなくても何気ない日々の活動で得た感性を大切に、近くの大人が受け入れることが、大切なのだと改めて気づかされ、これからも、子どもたちと共に自然の変化や子どもたちの心の変化を受け留めていきたいと感じました。

さて、幼児クラスでは、「ワクワクげきじょう」に向けて、何をお家の方に見てもらおうかと、子どもたちと共に話し合つて準備を進めています。一生懸命になりすぎたり、仲が良すぎたりするあまり、意見が衝突する場面もありますが、お互いを尊重する大切さを伝えながら、子どもたちを見守っています。しかし、最近、言葉遣いが悪くなっている傾向が感じられます。特に、男女関係なく、「うるせー、〜じゃねえよー、うざい」などといった、決して言うてはいけない言葉を、意味が分からないまま使っている子どもが目立ちます。言葉遣いは、意識しないとどんどんエスカレートしていきますので、周囲の大人が、丁寧に促す必要があります。私たち保育者も言葉遣いには十分注意しておりますが、ご家庭でも、丁寧なご指導をお願いいたします。

乳児クラスの子ども達は、お兄さんお姉さんの姿を見て喜んだり憧れの気持ちを持ったりして、行動もかなり活発になり、自己表現も豊かになってきています。こども園ならではの他学年の関わりは、子どもたちにとっても深い学びになっているのは、大変嬉しいことです。

12月は、『ワクワクげきじょう』『お餅つき』『クリスマス』など、多くのイベントがありますが、子どもたちと一緒に楽しい時間が過ごせるようにしていきたいと思います。異常気象のためか、11月から大雪が降った地域もあり、急激な寒さや乾燥などで体を崩しやすくなっております。鼻水、咳など出ているお子さんも増えてきていますので、うがい手洗い、食事、睡眠には、十分お気を付けになって体調管理をお願いいたします。



みらいこども園にて他園との交流を行いました



歯の染め出しをしました



新城小にて稲の脱穀体験